

第4学年 国語科学習指導案

第4学年1組 男16名 女9名 計25名
平成15年11月10日(月) 2校時
指導者 教諭 河田 裕

1 単元名 場面を比べて読もう

2 単元について

本単元の目標は、「場面の移り変わりや情景を、叙述を基にしながら読むこと」「読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」であり、低学年の「場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと」を受け、高学年の「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」へと発展するものである。また、児童は『白いぼうし』で「表現に気を付けて場面の状況を豊かにとらえる」「人物の気持ちを的確に読み取る」ことを学習してきている。この経験を生かして、場面の対比や、場面の様子や人物の気持ちの変化を読み取り、自分の読みと友達の読みとを交流することで、自分の感想をさらに深めまとめることができるようにすることがねらいである。

本単元では、戦争児童文学を教材として取り扱う。児童にとっても、また教師にとっても大変魅力があり、さらに内容、言語表現の両面から見ても、人間形成に役立つ高い価値を持つ作品であると考えられる。それは、「一つだけちょうだい。」という、ゆみ子の言葉を通して、人間の幸せを奪う戦争の残酷さから、平和の尊さ、両親の深い愛情、明るくたくましく生きる美しさに感動を覚えるからである。

この物語は、年齢的に自分たちと同じくらいのゆみ子の赤ちゃんの頃が中心となっている作品である。そこをしっかりと押さえれば、児童の興味を引くことができると考える。児童は戦争経験がないため、本教材に対しては「難しい」「分からないことが多い」という受け止め方をすると考えられる。「配給」「防空頭巾」「軍歌」などは、特に聞き慣れない言葉である。しかし、児童は昨今の戦争に関するテレビ報道やアニメーションで見る戦争物からある程度のことはイメージできているため、これらの語句が理解できれば、物語の展開もとらえられ、親子の生きる姿を通して、平和の尊さや戦争の悲惨さに気付くことができると考える。

戦争の背景を理解できない児童の中には、「かわいそう」という一言で感想を表すことが多いと考えられる。食べるものが満足にないゆみ子の境遇を思い、自分をゆみ子に置き換えてみて「かわいそう」という感想に結びつくだろう。しかし、時代背景をふまえれば、児童はゆみ子の言動にも納得はいくはずである。「一つだけちょうだい。」というゆみ子の言葉を通して、両親のゆみ子に対する深い愛情に気付かせていきたい

難語句を除けば、淡々とした語り口調の文章は、児童にとってはさほど抵抗はないと考える。表現の細部まで目を向けることで、より豊かな読みをするには最適な教材であろう。さらに互いに話し合うことにより、一人一人の考え・感じ方・思いの違いがあることに気付かせ、人物の気持ちや場面の様子について深く読み取らせることができると思う。

児童は、3学年で「ちいちゃんのかげおくり」を学習し、ひとりぼっちになっても家族に会いたいと願い続けたちいちゃんの姿を通して、戦争の悲惨さや、平和の尊さについて物語を通して触れてきた。また4学年では「三つのお願い」「白いぼうし」で物語を教材として学習してきている。

国語科の学習については、19名の児童が「とても好き」「少し好き」と答えている。自分の考えを発表することについては、「よく発表する」と答えた児童は4名、「あまり発表しない」と答えた児童が5名であった。普段の学習をみても、積極的に発表する児童は限られている。また「あまり発表しない」理由としては、「何を話していいかわからない」をあげている。話し合うことについても、個人差がみられる。

これまで一人読みとして視写やサイドライン引き、書き込みを行い、自分なりの読み取りをしようとするようになってきている。しかし、思い描いたことを自分なりの言葉に置き換えて話せなかつたりするために、一人一人の読みを交流させて練り上げ、学び合わせることは難しい。そのため、友達の考えから学ぼうとする態度は育ってきているものの、話し合いはなかなか深まらない。物語や説明文を読む時は、15名が「内容をよく考えながら読んでいます」と答えている。これまでの学習を通して、児童は言葉や文に着目して情景を想像し、人物の気持ちを読み取ろうとするようになってきている。しかし、登場人物が置かれて

いる状況をふまえて心の動きを想像したり，場面の対比から内容を読み取ったりする力もまだ不足している。そのため，読みが深まらなかったり，手がかりになる言葉や文を見つけてもイメージを広げられなかったりする児童が多い。

戦争を題材にした作品（本）についてのアンケート調査をしたところ，19名が「今までに戦争に関係する本を読んだことがある」と答えている。そのほとんどが第3学年で学習した「ちいちゃんのがげおくり」をあげていた。主人公に対して思ったことについては，ちいちゃんに同情して「かわいそう」と思っている児童が多く，ちいちゃんの生きる姿や純粋な気持ちにふれた感想はなかった。

指導に当たっては，戦争という極限状況の下で意味を歪められた「一つだけ」という言葉を巡る両親の言動から，幼いゆみ子に寄せる深い愛情とやり場のない苦悩を読み取らせたい。また，父親の出征によって家族のささやかな幸せも奪われながら，痛切な悲しみや憤りを押し殺さなければならなかった当時の社会の現実を目を向けさせ，平和の尊さについて考えさせたい。しかし，物の豊かな社会で成長してきた児童は，作品の背景となる戦争のもたらす様々な苦痛や物質的な窮乏をなかなか実感としてとらえることができない。そこで，「配給」「軍歌」のように戦争に関わる言葉や当時の生活の描写については適宜説明を補い，時代背景を確かにとらえさせたい。さらに，戦争中や戦後間もない頃の生活について読書や聞き取りを通して調べさせ，今の自分たちの生活と比較させながら，戦争中から今日までの歴史を再認識させたい。

本単元では身に付けさせたい力として【読む力】に重点を置くが，心に残ったことを明確にして話したり，友達と自分の，思いや感じ方の違いを比べながら聞くなどの【話す・聞く】力も身に付けさせることができるよう支援していきたい。

第一次では，初発の感想を基に，一人一人の興味・関心のポイントを明確にし，それを自分が調べたい課題として設定し一人読みに向けてのコース分けをする。コースは，「時代背景やゆみ子一家の生活」「母親の苦労や悲しみ」「父の思いや願い」とし，各自が視点を絞った読みができるようにする。

第二次では，ワークシートを活用し，場面ごとにコースの課題に従って読み進めていく。まず，各場面ごと課題についてどんなことを読み取ったかをグループ内で交流させる。その際，自分が書き込んだワークシートを手掛かりに，伝えたいことの内容を明確に話せるようにする。その後，それぞれの場面ごとに柱となるコースを決め，そのコースを中心に全体で交流する場を設け，短冊などを活用しながら全体で確認したり，整理したりしていく。柱以外のコースからも意見を求め，それぞれの意見を交流させたい。

第三次では，読み取ったことを基に，今の自分たちの暮らしと比較し，戦争中の暮らしについての疑問やもっと知りたいことなどについて調べたり，まとめて伝える活動を展開する。調べる活動では，作者の他の作品を読んだり，インタビューしたりするなど，視点を明確にして活動させたい。さらにまとめる活動では，調べたことの何を中心にまとめるか，つまり，一番伝えたいことは何かを明確にし，ポスターや新聞にまとめるなど，既習内容を十分に生かしたものにしたい。

3 研究主題との関連

筋道を立てて考える子どもの育成
- 国語科における学習活動の工夫を通して -

相手や目的を意識して，自分の考えを，はっきりと話したり書いたりする子ども

中学年では，研究主題を受け，学年部の目指す子ども像を「相手や目的を意識して，自分の考えを，はっきりと話したり書いたりする子ども」と設定している。

「相手や目的を意識して」とは，伝えたい事柄を，話したい・書きたいという意欲をもって取り組む姿とおさえる。

「はっきりと」とは，「中心を明確にする」「内容を整理したり，簡単な組み立てを考えたりする」など，自分の考えを相手に分かるように表現する姿とおさえる。

読み取ったことや話を聞いたことを基に，自分の考えを「話す活動」と「書く活動」を大事に支援していくことで，研究主題に迫っていきたい。

手立て1「学習課程の工夫」

児童の実態を把握し、学習過程を工夫して、学習内容の定着を図る。

ア 教材研究を十分に行い、本単元や本時の指導で身に付けさせたい「関心・意欲・態度」「話す・聞く力」「書く力」「読む力」「言語についての知識・理解・技能」の内容を吟味する。

イ 児童の実態や活動の内容にあわせた支援の工夫を行う。

自分の思いを相手に伝えていくことができるよう支援の工夫をする。

ア 学習計画の道筋を明確に示し、見通しをもちながら学習していけるように支援する。

イ 読み取ったことや話を聞いたことを基に、自分の思いを進んで表現できるように様々な支援をする。

手立て2「指導計画の工夫」

国語科と各教科・総合的な学習・領域との関連を図り、年間指導計画の作成をする。

ア 自分の思いを表現する活動を重視した題材を中心とし、話す力や書く力を支える活動を取り入れた年間指導計画の見直しと修正をする。

手立て3「学習環境の整備」

児童の興味・関心が高まったり、意欲が持続したりしていくような学習環境を整備する。

ア 学習の道筋や学習内容、友達の考えをまとめたものなど、学習内容に関わる資料を提示する。

イ 図書室や視聴覚室の基本的な活用法を身に付け、活用できるように支援を工夫する。

4 単元の目標

戦争中と戦後の場面を比べて読み、戦争を体験した人の思いや願いを考える。

戦争中の暮らしを調べてまとめ、内容を分かりやすく伝える。

関心・意欲・態度

ア 自らの読みのめあてをもちながら主体的に作品を読み、自分の考えをまとめたり発表したりしようとしている。

話す・聞く力

ア 自分の考えをはっきりともち、中心を明確にして話そうとしている。

イ 自分の考えと比べながら友達の考えを聞こうとしている。

書く力

ア 読み取ったことを明確に書いたり、書き足しや修正をしようとしたりしている。

イ 資料を使って調べたことや、感想などを分かりやすくまとめて書こうとしている。

読む力

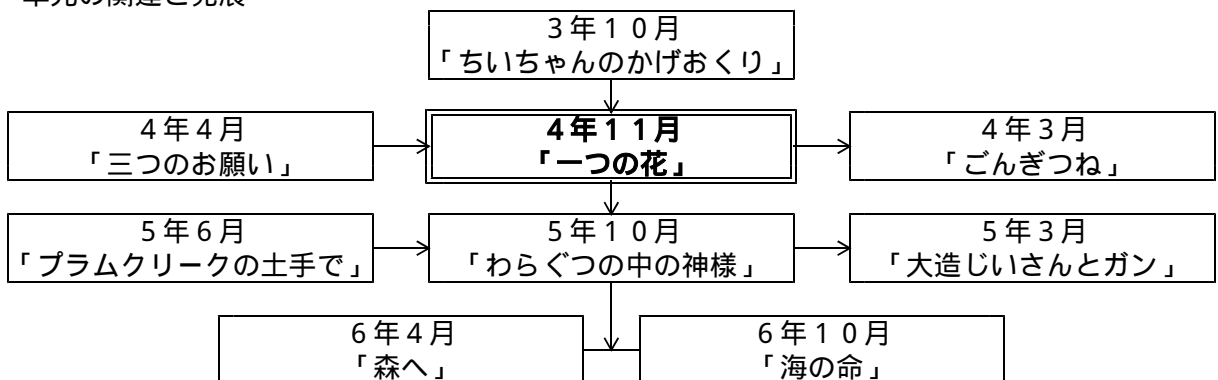
ア 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読む。

イ 内容の中心や場面の様子が相手によく伝わるように声に出して読もうとしている。

言語についての知識・理解・技能

ア 場面の様子や登場人物の気持ちを的確に表している語句や効果的な表現に気付き、その働きを考えようとしている。

5 単元の関連と発展



6 単元学習計画（12時間扱い 本時 4 / 12）

区分	時数	主な学習活動	評価					方法
			関	書	話聞	読	言語	
第一次	2	全文を読み，初めの感想を話し合う。 自分が調べたい課題に従ってコースを選択し，一人調べをする。	ア	ア		イ ア	ア	ワークシート
第二次	5	場面ごとに自分が選択したコースの課題についてまとめ，話し合う。【場面 〇】			ア	ア		ワークシート 発言
		場面ごとに自分が選択したコースの課題についてまとめ，話し合う。【場面 〇】(本時)			ア	ア		
		場面ごとに自分が選択したコースの課題についてまとめ，話し合う。【場面 〇】			ア	ア		
		場面ごとに自分が選択したコースの課題についてまとめ，話し合う。【場面 〇】			ア	ア		
		「一つの花」という題名の意味について話し合う。			ア	ア		
第三次	5	今の自分たちの暮らしと比べて気付いたことや疑問に思ったことを書く。 戦争中の暮らしについて調べる。 調べて分かったことを，感想とともに書いてまとめる。 言葉の学習をする。	ア	ア イ イ			イ	ワークシート ノート 新聞 ポスター

7 本時の学習

(1) 教材名 「一つの花」

(2) ねらい

お父さんが戦争に行く日の家族の気持ちを読み取る。

【読む力】

ゆみ子を想う夫婦の姿を通して，絆を深めていく家族の姿を読み取る。

【話す・聞く力】

課題に対し自分の考えをもち，みんなに伝え，友達の考えと聞き比べながら自分の考えを深める。

(3) 本時の手立て

手立て1「学習課程の工夫」

場面の様子や人物の気持ちを的確に読み取らせる。そのためにも語句・中心文にサイドラインを引いたり，想像したことを書き込むなどの書く活動を取り入れる。

自分の考えに自信をもって発表できるようにするために，自分の考えをワークシートに書き，まとめてから発表させるようにする。

手立て2「指導計画の工夫」

一人一人の読みを深めさせるためにも，一人読みから全体での話合いの形態を取り，友達の読みにも触れさせる。

手立て3「学習環境の整備」

場面の情景を想像させやすくするために，当時の駅や出征の様子の映像，軍歌などを視聴させる。

重要語句（特に戦争中の生活の状況を表すもの）について，写真や実物を提示し，イメージをとらえやすいようにする。

- (4) 準備物
 教師：ワークシート，VTR，ビデオデッキ，戦時中の様子を伝えるもの（防空頭巾，配給き
 っぷなどの実物や写真）
 児童：教科書，ノート，ワークシート

(5) 学習過程（別紙）

(6) 本時の評価

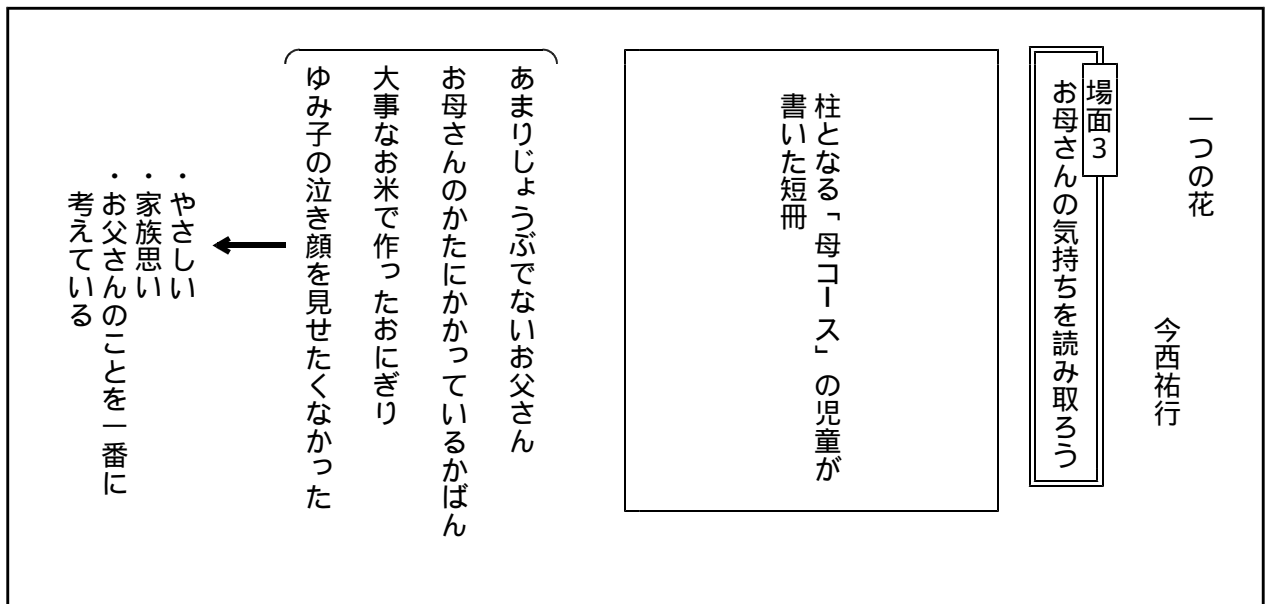
【読む力】

ゆみ子を想う夫婦の姿を通して，絆を深めていく家族の姿を読み取ることができたか。

【話す・聞く力】

課題に対し自分の考えをもち，みんなに伝え，友達の考えと聞き比べながら自分の考えを深めることができたか。

(7) 板書計画



8 資料

- (1) 座席表（別紙）
 (2) 評価規準表（別紙）
 (3) 学習カード（別紙）

9 参考文献等

小学校学習指導要領解説 国語編 - 文部科学省 -
 新しい教育課程の展開 小学校国語科 - 東洋館 -
 小学校国語 4年 指導事例集 - 光村図書 -

7 - (5) 学習過程

段階	主な学習活動	教師の支援	評価
つかむ 5分	<p>1 場面3を読み、この場面は家族の別れの場面であることを理解し特に、母の気持ちを柱に読み深めていくことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>場面3のお母さんの気持ちを考えよう</p> </div>	<p>場面3を一斉読みし、学習場面をおさえる。 映像を通して、場面の情景を具体的にイメージさせる。</p>	
ふかめ る 35分	<p>2 課題に対する個人解決をする。</p> <p>【母コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親の様子や気持ちが表れているところを見付け、ワークシートに書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>注目すべき描写</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにおぶわれて ・大事なお米で作ったおにぎり ・お母さんのかたにかかっているかばん ・ゆみ子の泣き顔を見せたくない ・ええ、もう食べちゃったんですの - ~ </div> <p>【時代コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代を表す語句や叙述を見付け、ワークシートに書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>注目すべき描写</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりじょうぶでない - 戦争に行かなければならない ・防空頭巾 ・包帯、お薬、配給のきつぷ ・大事なお米 ・ばんざいの声 ・勇ましい軍歌 </div> <p>【父コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひっそりと出征の時を待つ父の様子や気持ちが表れているところを見付け、ワークシートに書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>注目すべき描写</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まるで、戦争なんかに行く人ではないかのように ・みんなおやりよ、母さん。おにぎりを - </div> <p>3 コース内で読み取った内容を交流し合う。</p> <p>4 個人で読み取った内容を全体で交流し読みを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母コースの児童が書いた短冊を黒板に貼る。 ・貼り出した短冊を基に、そこから想像される母の想いを発表する。 	<p>柱となる母コースでは、泣き顔を見せないように一生懸命にゆみ子をあやしたり、出征する夫を気遣う姿を意識した読みとりができるようにする。</p> <p>時代コースでは、時代を描写している語句や叙述から、母のゆみ子や夫に対する思いを読み取ることができるようにする。</p> <p>父コースでは、ひっそりと出征の時を待つ父の思いを読み取ることができるようにする。</p> <p>各コースごとにワークシートを活用し、コースの課題にしたがって読みを進めることができるようにする。</p> <p>柱である母コースの児童には、短冊を配布し読み取った内容を書き込むようにする。</p> <p>各コースごとに、課題についてどんなことを読み取ったのかについて意見交流をする。ここでは、何かをまとめるということではなく、自由な意見交換の場とする。</p> <p>内容を確認しながら短冊を整理し、それを手掛かりにして話合いの深まりを目指す。</p> <p>口頭での補足など、積極的な発言を促していく。その際、「なぜそう思うのか」「どの部分からそう感じるのか」など、常に本文を意識させるようにする。</p> <p>他の二つのコースの児童にも、それぞれのコースの立場からの意見を求め、それぞれの意見を交流させていく。</p>	<p>【読む力】</p> <p>ゆみ子を想う夫婦の姿を通して、絆を深めていく家族の姿を読み取ることができたか。</p> <p>【話す・聞く力】</p> <p>課題に対し自分の考えをもち、みんなに伝え、友達の考えと聞き比べながら自分の考えを深めることができたか。</p>
まとめる 5分	<p>5 本時の学習を振り返り、場面3を音読する。</p>	<p>三人の気持ちを思いながら音読する。</p>	

「一つの花」ワークシート

名前

場面三

お母さんの気持ちを考えましょう。

お母さんの気持ちが分かる文

どんな気持ちか

（ ） コースの立場から

今日の学習をふりかえりましょう。（ ）と で記入しましょう（

自分の考えをもつことができましたか。

自分の考えを分かるように伝えることができましたか。

友達の考えをしっかりと聞くことができましたか。

ふりかえりの音読はうまくできましたか。